

③ 女性研究者裾野拡大

◎work◎life◎
balance innovation

③-1 女性研究者裾野拡大セミナー

(1) 女子高校生・大学生向けセミナーの開催

女子高校生・大学生に研究の魅力を伝えると共に、女性研究者のロールモデルとしての姿を示し、将来の女性研究者の増加を願ってセミナーを開催した。

平成22年6月に策定された「男女共同参画基本計画」には各学部等で定期的に開催することを明記し、男女共同参画推進委員等を中心に企画・実施している。

3年間に実施したゼミナーの一覧表

回	開催日	学部	テ ー マ・参加者数
1	平成21年8月5日(水) 6日(木)	農学部	実験「女子高生のための農学部キャリアセミナー」 参加者：女子高校生34人、他3人、計37人
2	平成22年2月19日(金)	農学部	講演「農学部系卒女子のお仕事って?～先輩に聞こう!」 参加者：女子高校生23人、女子大学生46人、他2人、計71人
3	平成22年9月7日(火)	理学部	講演「公開講座—ナノブランクton研究について—」 参加者：女子高校生6人、他、計約50人
4	平成22年11月2日(火)	工学部	座談会「先輩女性研究者と語る未来～」 女子学部生・院生約30人
5	平成22年11月2日(火)	人文学部	講演「人文学部OGが語る日本近代文学研究」 参加者：女子大学生約30人、他12人、計42人
6	平成22年11月6日(土)	農学部	講演「大学院生に聞いて見よう!大学での研究生活ってどんな感じ?」 参加者：女子高校生約30人・大学生約20人、他約10人計約60人
7	平成22年11月19日(金)	理学部	女性研究者による未来予想図～元気な女子が世界を変える～ 参加者：女子高校生90人、大学生11人、他14人、計115人
8	平成23年1月19日(水)	工学部	講演「目指せ!理系マドモワゼル!～理系女子力UPセミナー」 参加者：女子高校生12人、大学生38人、他15人、計65人
9	平成23年7月15日(金)	理学部	交流会「理学部地球環境学科OGとの交流会」 参加者：女子大学生20人
10	平成23年10月4日(火)	農学部	講演会「女性研究者として歩んできた道」 参加者：女子学部生・院生約20人、他約15人、計約35人
11	平成23年10月5日(水)	医学部	交流会「医学部女子学生と女性研究者交流セミナー」 参加者：女子大学生5人、研修医・医師8人、計13人
12	平成23年10月22日(土)	農学部	実験「作物からDNA-RNAを抽出してみよう」 参加者：女子高校生14人
13	平成23年11月9日(水)	人文学部	講演「みんなで話そうキャリアアップ&就活」 参加者：女子大学生約100人
14	平成23年11月11日(金)	全学	トーク「女子高校生☆夢に向かって!疑問にお答えします。」 参加者：女子高校生10人、女子大学生約5人、他約85人計約100人
15	平成23年11月12日(土)	医学部	講演「次世代を担う女性研究者の裾野を拡大するには」 参加者：女子学生・院生約15人、他約15人、計約30人
16	平成23年12月16日(金)	理学部	講演「柔にして剛～たおやかに生きる～」 参加者：女子学生・院生38人、男子学生・院生7人、計45人
17	平成24年1月28日(土)	工学部	「目指せ★未来のMs.CEO!!～理系女子力を世界で活かそう!～」 参加者：女子高校生3人、学生27人、教員他2人、計32人

延べ参加人数は、女子高校生が約222人、大学生・院生が約412人、教職員他が約225人、合計約859人となった。セミナーの講師を務めた研究者や山形大学卒業生・修了生は、約44人にのぼった。

女子高校生・大学生対象の女性研究者裾野拡大セミナー

1

テーマ：女子高生のための山形大学農学部キャリアセミナー

日時：平成21年8月5日（水）～6日（木）

場所：山形大学農学部（山形県鶴岡市）

講師：木村直子山形大学農学部准教授 他

参加人数：女子高校生34人、高校教諭3人、計37人

内容：講義と実験（環境系・食品栄養系・農学理学生物系の3つの進学希望コース分かれて行われた。）



2

テーマ：農学部系卒女子のお仕事って？ ～先輩に聞こう！～

日時：平成21年12月19日（土）14：00～16：30

場所：山形大学農学部（山形県鶴岡市）

講師：三宅 裕子氏（武田薬品工業（株）開発研究センター・研究員）

大木 庸子氏（環境省東北地方環境事務所・自然保護官）

大井歌奈子氏（森永製菓（株）菓子マーケティング部企画担当）

岡部 幸子氏（元青年海外協力隊、現（財）山形県国際交流協会・相談員）

鈴木 雪絵氏（山形大学農学部・技術職員）

参加人数：女子高校生23人、高校教諭2人、女子学部生46人、計71人

内容：第1部 講演 農学部OGによる「私たちの職場はこんなところです！」

第2部 パネルディスカッション 講師と参加者との質疑応答

第3部 農学部構内施設見学会（高校生希望者）



3

テーマ：ナノプランクトンに関する公開講座及びパネルディスカッション

日時：平成22年9月7日（火）17：30～

場所：山形テルサ・アプローズ

講師：原田 尚美氏（独立行政法人海洋研究開発機構）

富岡（萩野）恭子氏（岡山大学）

Denise Kulhanek氏（米国国立科学財団ポスドク）



女子高校生の質問に答えるパネリスト

Emanuela Mattioli氏 (リオン大学)

Paul Bown氏 (ロンドン大学)

参加人数：女子高校生約10人、他、大学生、国内外研究者

内容：講演「研究者になるまでの道のり」

パネルディスカッション・講師と参加者との質疑応答 パネル展

4

テーマ：先輩女性研究者と語る未来

日時：平成22年11月2日(火)

場所：山形大学工学部(山形県米沢市)

講師：高塚由美子 山形大学大学院理工学

研究科助教(バイオ化学工学分野)

帯刀陽子 山形大学大学院理工学

研究科助教(機能高分子工学分野)

参加人数：女子学生約30人

内容：座談会「研究内容の紹介と研究に惹かれた
きっかけ」

懇親会 日頃考えていることなど



5

テーマ：人文学部OGが語る日本近代文学研究

日時：平成22年11月2日(火) 13:00~14:30

場所：山形大学人文学部1号館102教室

講師：赤間 亜生氏(仙台文学館 学芸室長)

水野 麗氏(秋田工業高等専門学校講師)

参加人数：学生・教職員42人

内容：講演

「研究内容やこれまでのライフコースについて」

参加者との質疑応答



インタビューに答えるOG

6

テーマ：大学院生に聞いて見よう！

大学での研究生生活ってどんな感じ？

日時：平成22年11月6日(土) 14:00~16:20

場所：山形大学農学部301教室

講師：湯川由菜さん(農学部修士学生)



堀江亮太さん（農学部修士学生）
 齋藤明日香さん（農学部修士学生）
 稲田瑛乃さん（農学部修士学生）

参加人数：高校生・大学生・高校生保護者 計 約60人

内容：第1部 プレゼンテーション「大学での研究生活ってこんな感じ！」
 第2部 観察「覗いてみよう！生物のミクロな世界」

7

テーマ：次世代を担う女性研究者による未来予想図～元気な女子が世界を変える～

日時：平成22年11月19日（金）13：30～16：30

場所：山形大学理学部S401講義室

講師：・高橋 唯さん（山形大学大学院理工学研究科）

「放射線を利用した年代測定技術とその応用」

・宮城ゆき乃さん（住友ゴム工業株式会社）

「環境にやさしいエコタイヤ創り」

・横山亜紀子さん

（筑波大学大学院生命環境科学研究科助教）

「藻類・プロティストの多様な世界」

・鉢呂智子さん（仙台白百合学園高等学校教諭）

「数の国のアリス！～ようこそ不思議な数の世界へ～」



宮城ゆき乃さんの指導で
合成ゴム作りに挑戦する高校生

参加人数：女子高校生90人、高校教諭6人、大学生・院生11人、大学職員8人、計115人

内容：講演と実習（合成ゴム作り）

8

テーマ：目指せ！理系マドモワゼル！～理系女子力UPセミナー

日時：平成23年1月19日（水）13：30～19：00

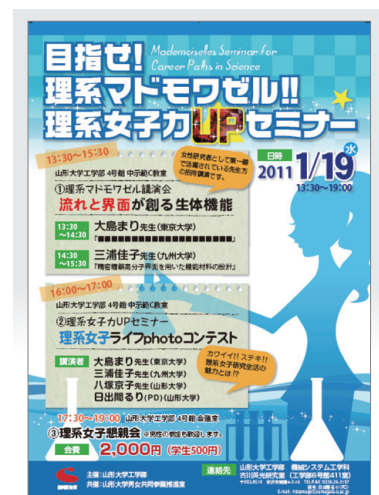
場所：山形大学工学部4号館中示範C教室

講師：大島まり氏（東京大学大学院情報学環教授）

三浦佳子氏（九州大学工学研究院教授）

参加人数：高校生12人、大学生・院生38人、教職員15人、計65人

内容：①理系マドモワゼル講演会「流れと界面が創る生体機能」
 ②理系女子力UPセミナー「理系女子ライブphotoコンテスト」
 ③理系女子懇親会



9

テーマ：理学部地球環境学科OGとの交流会

日時：平成23年7月15日（金）13：00～14：45

場所：山形大学理学部SCITAセンター

ミーティングルーム



講師：佐藤佳子氏（11期生・独立行政法人海洋研究開発機構） OGと学生との交流会

山田陽子氏（11期生・国土地理院）

瀧澤 薫氏（19期生・日本海洋事業（株）・海洋研究開発機構）

大久保里美氏（23期生・株式会社ナルセ）

斉藤八千代氏（23期生・ミドリホクヨー（株））

賞雅朝子氏（24期生・東京大学地震研究所）

参加人数：女子大学生20人

内容：①OGによる研究や仕事内容などの紹介

②OGと在校生との意見交換

③OGによる進路相談

10

テーマ：女性研究者として歩んできた道

日時：平成23年10月4日（火）16：00～17：30

場所：山形大学農学部会議室

講師：久保田紀久枝氏

（お茶の水女子大学教授・前副学長）

参加人数：学生22人、教職員8人、計30人

内容：講演・質疑応答



久保田紀久枝氏の講演

11

テーマ：医学部女子学生と女性研究者交流セミナー

「医学部卒業で研究するってどういうことだろう？」

日時：平成23年10月5日（水）18：00～19：30

場所：山形大学医学部会館第1集会室

講師：医師（研究者）



交流セミナーの様子

参加人数：医学科学生6人、研修医3人、医員2人、教員3人、計14人

内容：・研究職に携わるキャリアの紹介

・医師（研究者）の体験談

・質疑応答

12

テーマ：作物からDNA-RNAを抽出してみよう

日時：平成23年10月22日（土）9：00～16：00

場所：山形大学農学部講義室及び第2実験室

講師：阿部利徳（山形大学農学部教授）

笹沼恒男（山形大学農学部准教授）

参加人数：女子高校生14人

内容：①核酸抽出・確認実験

②女子学生（4年生）による講話「大学での学生生活について」



実験中の高校生

13

テーマ：みんなで話そう キャリアアップ&就活

日時：平成23年11月9日（水）16：30～18：30

場所：山形大学基盤教育2号館222教室

講師：菅原清華氏（平成22年修了生・独立行政法人日本学生支援機構）

菊池亮子（平成21年修了生・山形大学工学部事務部）

亀山美里さん（山形大学社会文化システム研究科2年在学中）

参加人数：女子学部生約100人参加）

内容：第1部 女子学生の就職に関する講義

第2部 大学院OG・現役大学院生によるワークショップ



ワークショップの様子

14

テーマ：女子高校生☆夢に向かって！～女性研究者が疑問にお答えします～

日時：平成23年11月11日（金）16：30～17：40

場所：山形テルサ・アプローズ

講師：・石島智子氏（東京大学大学院農学生命科学研究科特任助教）「私の仕事・研究・家庭」

・はやのん氏（理系漫画家）「漫画で理系女性を応援する」

・渡辺絵理子氏（山形大学基盤教育院准教授・元機能性ペプチド研究所（山形市）研究員）

「ラ・フランス、サクランボから化粧品を開発」

参加人数：女子高校生10人、女子大学生約5人、他約85人、計約100人

内容：パネルトーク

15

テーマ：次世代を担う女性研究者の裾野を拡大するには

日時：平成23年11月12日（土）10：00～18：00

場所：山形大学医学部看護学科第1講義室及び生命科学実習室

講師：・下田智子氏（北海道大学大学院保健科学研究院助教）

「セルフメディケーションと看護師が活躍する遠隔医療の進展」

・松田友美（山形大学医学部看護学科助教）

「しかるべき看護実践のための思考回路改革

～基礎科学研究を通して得た一研究者の愚見」

参加人数：学生18人、一般17人、計35人

内容：第1部 特別講演

第2部 ①実験に基づいた基礎科学研究の成果発表

②学生、一般参加者向け実験紹介



16

テーマ：柔にして剛～たおやかに生きる～

日時：平成23年12月16日（水）16：00～17：00

場所：山形大学理学部13番講義室

講師：小池あゆみ氏（神奈川工科大学教授）

参加人数：学生・院生、教職員、一般

計45人（女性38人・男性7人）

内容：講演



小池あゆみ氏の講演

17

テーマ：目指せ★未来のMs.CEO!!～理系女子力を世界で活かそう!～

日時：平成24年1月28日（土）13：30～17：00

場所：山形大学工学部100周年記念館

セミナールーム

講師：・瀬谷ルミ子氏（日本紛争予防センター代表）

「平和構築で生きる理系力」

・山口スティーブ氏（山口コーポレーション代表・東北トラベル代表・
日本ソフトパワー研究所代表）

「理系人間ならではのソフトパワーで東北を復興せよ」

・大野恵美氏（株式会社IHI電力事業部燃焼技術部主査（課長））

参加人数：女子高校生3人、高校教諭1人 学生27人、教員1人、計32人（女性16人・男性16人）

内容：・講演

・パネルトーク「世界に貢献する理系女性研究者リーダー像を考える」



(2) 博士・ポスドク対象キャリア・セミナー

大学の研究職だけでなく企業の研究職についても知ることにより、高い研究能力を生かせる道を探る機会とするため、博士課程在籍者やポスドク研究員対象のキャリアセミナーを工学部で初めて開催した。

日時：平成23年7月4日（月）

セミナー14：00～16：00

個別相談16：00～17：00

（当初、平成23年3月に予定されていましたが、東日本大震災のため、この日に開催となりました。）

場所：山形大学工学部4-213号室

講師：長井裕樹氏（人材コンサルタント）

参加人数：15人（内女性3人）

学部生1人・博士前期課程6人・博士後期課程5人・ポスドク1人・研究支援員1人・教員1人

内容：・大学での研究と企業での研究の違い ・企業の職に就く際の留意点
・博士ならではの就職活動方法や就活ポイント



セミナー



個別相談

講師のコメント：「見通しを持ってないでいる人、見通しを持っているがアドバイスが必要な人と個々の状況は様々で、今後も個別相談の機会が必要である。」

アンケート結果（14人回収）：①「参考になった」100%

②要望や感想

- ・博士の就活情報があまりなかったので参考になった。
- ・博士課程進学やポスドクの立場で悩んでいる人は多いと思う。今後も開催してほしい。
- ・具体的な企業と大学の差など、自分では及ばなかった視点が明らかになった。
- ・自分のキャリア形成について真剣に考えるということが参考になった。

③-2 | 基盤教育「ウーマン・オブ・ヤマガタ」

これからの社会の担い手である学生が、多方面で活躍する学内外の女性たちとの対話を通して自らのキャリア・ビジョンを描くことをねらいとして、主に学部1年生を対象にした教養教育（平成22年度からは基盤教育として再構築）を平成21年度から開講した。学内講師は、全学部等から推薦で各1人を決定した。

性別役割分担を見直し、男女ともに仕事と生活の調和（ワークライフバランス）が保てる働き方ができる社会について考えた。

平成21年度「ウーマン・オブ・ヤマガタ」講師一覧表

学部等	講師	所属等
人文学部	阿部 未央	法経政策学科講師。専門は労働法・社会保障法。
地域教育文化	大森 桂	生活総合学科准教授。専門は食生活学、教科教育学
理学部	天羽 優子	物質生命化学科准教授。専門は化学物理、分光学
医学部	片野 由美	看護学科名誉教授。子どもを連れてミシガン州立大学へ留学
工学部	金澤 恵里	事務ユニット研究支援チーム。プロジェクトの実施補助等
農学部	佐々木由佳	フィールド科学センター助教。水稻栽培技術を研究
学外	野口比呂美	NPO法人やまがた育児サークルランド代表
学外	斎藤 真美	山新観光営業部課長。業務は企業・行政等の旅行企画や営業
学外	菅野美奈子	AISOHO企業組合代表理事。専業主婦から起業
学外	長岡 慈子	たんぼぼ保育園園長。山形大学教育学部OG

平成22年度「ウーマン・オブ・ヤマガタ」講師一覧表

学部等	講師	所属等
地域教育文化	坂本 明美	教職研究総合センター准教授。フレネ教育を研究
理学部	長谷見晶子	地球環境学科教授。地震波形や震源分布を調査
医学部	鈴木 匡子	大学院医学系研究科主任教授。専門は高次脳機能傷害学
工学部	高塚由美子	大学院理工学研究科助教。カリフォルニア大学で研究
農学部	木村 直子	生物資源学科准教授。卵の老化現象や雌雄産み分けを研究
基盤教育院	加納 寛子	准教授。情報リテラシー・情報モラルを研究
学外	加藤 水希	山形銀行地域振興部。働く女性と女子大学生の交流会を企画
学外	新関さとみ	企業組合理事長。「女性のチャレンジ賞」（内閣府）受賞
学外	齋藤由美子	山形県男女共同参画センター・チェリア企画係長
学外	高橋菜穂子	山形ガールズ農場を設立し代表

平成23年度「ウーマン・オブ・ヤマガタ」講師一覧表

学部等	講師	所属等
人文学部	赤倉 泉	法経政策学科准教授
地域教育文化	伊達 華子	文化創造学科教授。ピアニスト。育児・介護を経験
理学部	天羽 優子	物質生命化学科准教授。水、溶液系を研究中
医学部	金子 美華	先端分子疫学研究所分子腫瘍マーカー研究チーム講師

医学部	佐藤 幸子	看護学科教授。専門は子どもの心のケア
工学部	仁科 宏美	大学院理工学研究科国際交流センター准教授
農学部	渡辺 理絵	食料生命環境学科准教授
学外	吉村美栄子	山形県知事。57歳で知事選に立候補し当選
学外	井上 弓子	高島電気株式会社代表取締役会長。難病の子どもの支援活動
学外	加藤 孝子	山形労働局雇用均等室長
学外	白旗 由美	山形県警察本部警務課犯罪被害者支援室少年補導専門官

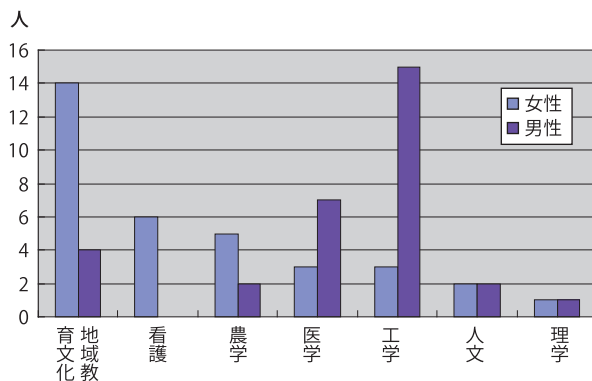
3年間の受講生の概要

1 受講動機（男女別に多い順）

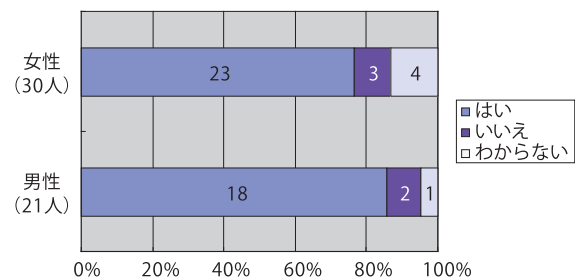
	女性	男性
1	・活躍する女性の話を聞いて、自分に生かしていきたい。	・男女共同参画社会や女性の社会進出に興味がある。
2	・女性の仕事の話を聞く機会が少ないので興味がある。	・社会人の話は自分の考え方の幅を広げ、ためになる。
3	・仕事と生活の両立を考えたい。	・女性の考えや職場環境、生活を知りたい。

2 授業前アンケート結果

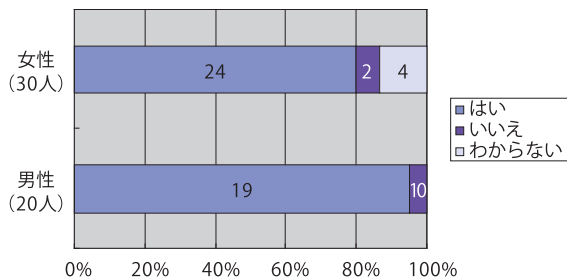
(1) 受講生65人の所属学部
(女性34人・男性31人)



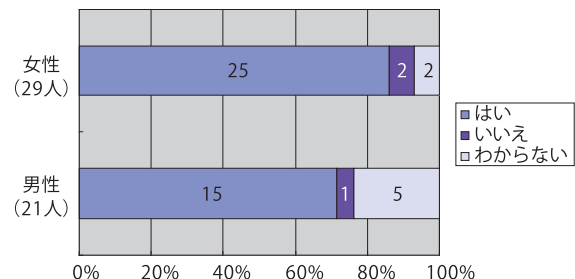
(2) 「将来、結婚したい」
回答者51人（女性30人、男性21人）



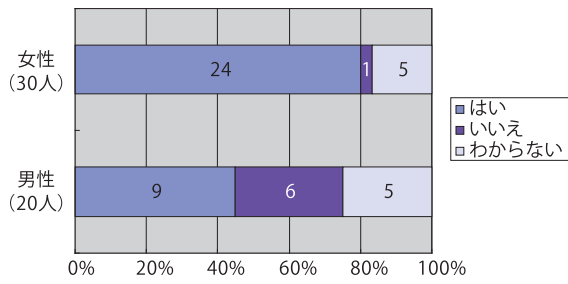
(3) 「結婚後も働きたい」



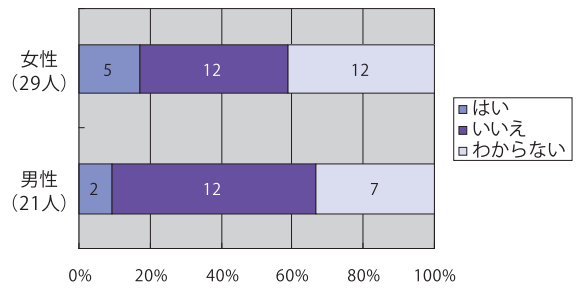
(4) 「将来、子どもをもちたい」



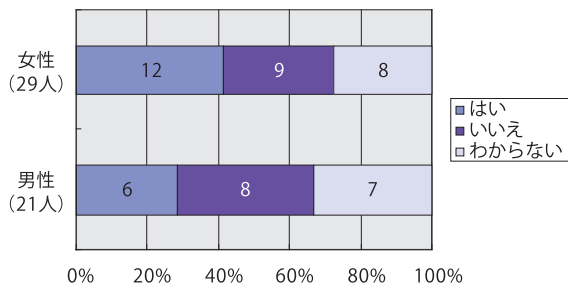
(5) 「育児休業を取って育児をしたい」



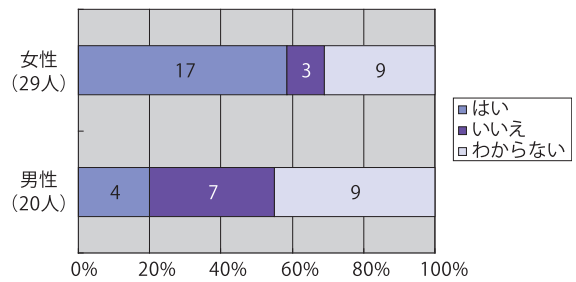
(6) 「母親は仕事を辞めて育児に専念した方がいい」



(7) 「女性の方が育児に適している」



(8) 「男女共同参画は遅れていると思うか」



3 講義や対話、学生のプレゼンテーションの様子



学生と講師（新聞さとみ氏）との対話
（平成22年10月26日（火））



学生と講師（長谷見晶子教授）との対話
（平成22年12月7日（火））



吉村美栄子山形県知事による公開特別講義
（平成23年5月17日（火））

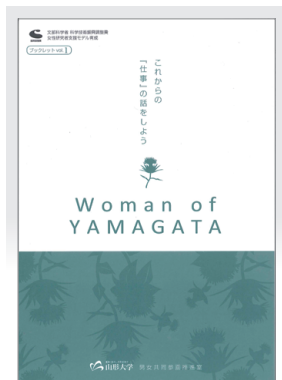


グループでのプレゼンテーション
（平成22年2月8日（火））

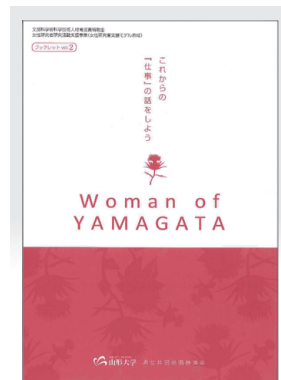
4 学生の気づき（平成23年度授業の気づきノートより抜粋）

- ①授業を受ける前は、大きな挫折もなく進んできた女性たちなのだと思っていた。しかし、話を聞くと、全ての方が何かしら問題を抱えていたり、壁にぶつかったりして私たちと同じような悩みを抱えながら今に至っていることがわかった。私も努力を続けていかなければならないのだと感じた。（人文学部・女性）
- ②女性が男性と同じように働いて子育てをするというのはものすごく無理をして頑張らないといけないものだと思っていたが、自分のできる範囲で最大限の努力をして、それを超えてしまったものは人に頼ってもいいのだということがわかった。（医学部・女性）
- ③今までは男としての考え方でしか考えてこなかったが、この授業により女性にしか分からない考え方に気づき、他人の考え方も尊重すべきであると考え始めた。女性の経験だから自分には関係ないのではなく、必ず自分に影響があるものと思い、何年先でもこの考えを大事にしていきたい。（工学部・男性）
- ④臨床医として働いた後、研究したいと思うことに出会ってから院に行ってもいいと思っています。今はどの道にも進めるような力を貯める時期だと考えられるようになっていきます。（医学部・女性）
- ⑤研究者としてのキャリアアップや転勤は、子どもが小さいうちは難しいと思っていた。だから研究者のような仕事は子どもがいない方がよいと思っていた。しかし、子どもが小さくても精力的に研究をしている方の話を聞くとそうでもないのではないかと思った。ただ、夫や家族の理解・協力が得られるからこそできるものであり、もし違う人と結婚していたら活躍は無理だと思う。（医学部・女性）
- ⑥育児は母親だけの問題ではなく、父親そして社会の問題でもあると改めて感じた。父親という役割は大切だと思った。妻を支えることも妻から支えられることも大切であると思う。昔は仕事さえしていればいいなんて思っていたけど、今ではそんなことはないと思った。（工学部・男性）
- ⑦この授業で考え方の変化があった。この授業を受ける前までは、男は外で働いて、女性は育児に専念するという考え方だった。しかし、授業で先生方からいろいろな話を聞いているうちに、女性が仕事をして、男性が育児をしてもいいんだと思えるようになった。より多くの女性が社会進出できることを願う。（工学部・男性）

5 講義・対話記録集「Woman of YAMAGATAこれからの『仕事』の話しよう」発行



Vol.1平成23年3月31日発行



Vol.2平成23年11月8日発行

③-3 | ジェンダー関連授業の拡大

平成20年度 開講科目数（学部授業）17

	部局名	科目名	担当教員		受講者概数	
			男性	女性	男性	女性
1	地域教育文化学部	教育社会学	0	1	32	66
2	〃	総合演習（男女共同参画社会と教育）	0	1	12	35
3	〃	社会学概論	1	0	6	2
4	〃	視覚文化概論	1	0	20	63
5	〃	家庭経営学	0	1	3	5
6	〃	家族関係学	0	1	0	4
7	〃	家庭科教育法A	0	1	3	9
8	〃	家庭科教育法B	0	1	2	10
9	〃	家庭科教材研究B	0	1	1	5
10	〃	社会システム計量分析	1	0	12	18
11	〃	生活学序論	0	1	28	72
12	教養教育	聖母・魔女・お姫様（芸術）	1	0	114	155
13	〃	労働者と農民（経済学）	1	0	13	7
14	〃	家族と地域社会（社会学）	1	0	126	136
15	〃	格差を考える（教養セミナー）	1	0	8	7
16	〃	自分の未来を描いてみるーキャリア形成論	9	3	49	76
17	〃	ジェンダーを考える	0	1	7	9
		男女別合計	16	12	436	679
		合計（開講科目数17）	28人		1,115人	

平成21年度 開講科目数（学部授業）18

	部局名	科目名	担当教員		受講者概数	
			男性	女性	男性	女性
1	人文学部	社会学基礎	1	1	7	8
2	人文学部	現代社会学演習（前、後期）	1	1	8	29
3	地域教育文化学部	教育社会学	0	1	43	29
4	〃	総合演習（男女共同参画社会と教育）	0	1	24	35
5	〃	社会学概論	1	0	3	0
6	〃	視覚文化概論	1	0	22	61
7	〃	家庭経営学	0	1	1	10
8	〃	家族関係学	0	1	2	10
9	〃	家庭科教育法A	0	1	3	5
10	〃	家庭科教育法B	0	1	3	3
11	〃	家庭科教材研究B	0	1	0	6
12	〃	社会システム計量分析	1	0	16	14
13	〃	生活学序論	0	1	27	62
14	基盤教育	聖母・魔女・お姫様（芸術）	1	0	102	164
15	〃	格差を考える（教養セミナー）	1	0	17	5
16	〃	実践的キャリア教育学（総合）	1	0	16	18
17	〃	自分の未来を描いてみるーキャリア形成論	1	0	50	60
18	〃	ウーマン・オブ・ザ・ヤマガタ（教養セミナー）	0	1	11	10
		男女別合計	9	11	355	529
		合計（開講科目数 18）	20人		884人	

平成22・23年度の新設授業（男女共同参画推進室コーディネーターによる授業）**平成22年度**

科目名：「ジェンダーの社会学」

担当：坂無淳 助教

開講年度：平成22年度前期 水曜3・4校時 基盤教育

受講生：58人（うち女性33人）

内容：現代日本の社会現象や社会問題をジェンダーの視点から読む解くこと、得られた知識を受講生の現在や将来の生活と関係づけて考えることが狙いの講義である。ジェンダー研究、女性学、男性学等の知見とともに、社会学（家族社会学、職業の社会学等）の知見を紹介した。現代の日本社会を中心的に扱うが、現代日本社会を相対化するために、過去の日本社会や他国との比較も適宜行った。講義形式だが、適宜、映像資料の使用や、山形県の男女共同参画センターの講座を修了したチェリア塾マスターコース修了生を招いてのワークショップなどを行った。

平成23年度

科目名：「男女について議論する」

担当：坂無淳 助教

開講年度：平成23年度前期 水曜3・4校時 基盤教育

受講生：35人（うち女性11人）

内容：ジェンダーに関する文献を複数読み、基礎的な知識を得るとともに、参加者同士で自由に議論することで理解を深めることを目的としたゼミ形式の授業である。文献の要約、司会、議論のまとめ等、担当教員が方法を示したうえで、全て学生が行った。扱った文献は、家族・仕事・恋愛・結婚・教育・見た目・ファッションなど、いずれもジェンダーに関するものである。議論の他に数回ワークショップを行い、自身の考えやグループでの議論を、口頭や文章で伝える機会を持った。

平成22・23年度

科目名：「ジェンダーの文化人類学」担当：幅崎麻紀子 助教

開講年度：平成22年度前期、平成23年度前期 水曜5・6校時 基盤教育

受講生：平成22年度約90名、平成23年度約140名

内容：本講義のテーマは、様々な社会・文化のジェンダー観を理解することであり、文化人類学を学ぶことを通して異文化を理解し、我々の持つ文化（自文化）を文化人類学の視点から改めて見直し、「他者」を理解するための考え方・ものの見方を養うことをねらいとしている。特に、本講義では、「ジェンダー」に焦点を当て、社会や文化によって異なる男らしさ女らしさ等の事例を通して、我々の持つ性別観やジェンダー観を見つめ直すことを目標とした。

講義時間割上受講できない学部を除き、ほぼ全学部の学生が受講している。本授業は講義形式ではあるものの、ワークショップ形式を取り入れ、双方向的な授業を行った。